

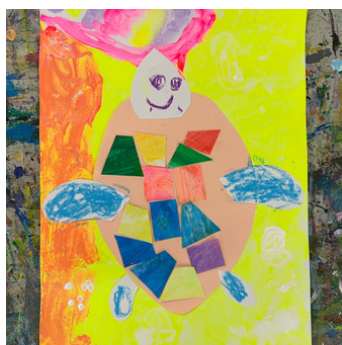
TRILL ART CLASS通信

2025年9月号

アートクラスの先月の活動

幼児クラス

幼児クラスの活動では、夏の終わりに可愛いウミガメを描きました！絵の具で思い思いの色合いの海を描いたら、そこに画用紙を貼り合わせて亀を作っていきます！仕上げに、カラフルな色画用紙をタイルの様に貼り合わせたら、素敵なウミガメの絵画の完成です。涼しげな雰囲気にも、残暑も少し和らぎますね(^^)



小学生クラス

小学生クラスでは、ペーパークラフトのエビを作りました。紙を折り曲げて、歪んだ四角錐をつくったら、背面に切り込みを入れて曲がる構造にして、エビの背面を再現します。オレンジや赤を基調にしながら、カラフルな色合いに彩色したら、髭や脚をはったら、おしゃれなエビの完成です！

紙という平面から立体を立ち上げ、それをアートに仕上げていく制作過程は、算数や理科、図工・美術にまたがる複合的な体験です(^^)



絵画・デッサンクラス

絵画クラスでは、ガラスの器を描く課題に挑戦しました！ガラスの器の輪郭の取り方、透明感を表現するための色の使い方を身につけることができました！少し複雑なモチーフでしたが、見事に描くことができましたね！

デッサンイラストクラスでは、人物の全身像を短時間で描く「クロッキー」というトレーニングに取り組みました！先輩OGにモデルさんになってもらい、ながら5分や10分で全身を描く練習をしました。全身のバランスの取り方や、人体を描く時にどこがポイントになるのか、などを学ぶことができましたね！



おおぞら先生のちょこっとコラム

思い出と場所の話

父方の祖父が89歳で亡くなって、今年の8月で一年になります。

祖父が亡くなり、加えて祖母はすでに7年前に他界しているという事情もあるため、親類内では祖父母宅は手放す方向で話が固まっている様です。時折、叔母や従兄弟が出入りして、物の片付けや形見の引き取りをしているらしいのを、親類のグループLINEで見聞きをしています。

「らしい」という物言いでも、お察しいただけるとおり、僕自身はというと祖父の葬儀依頼、1度ほどしか祖父宅には行っていない。なぜか、というと「祖父のいない祖父の家」を見たくないのです。不思議なことに「祖父自身の死」と同じくらい「祖父がいない祖父母の家」という存在に、僕は喪失感を感じているらしいのです。

全ての思い出には、「場所」があります。

冬の早朝にヒーターの青い炎を眺めながら着替えをした祖父の家のリビング。大学受験の合格発表を確認した金沢のビジネスホテルのロビーの有料レンタルパソコンの前。妻と結婚前に付き合っていた頃に迎えに向かうときに使っていた夕方の23号線。経験のインパクトの濃淡や期間・頻度は異なれど、僕たちの思い出は、実は物理的な場所と不可分なんだと思います。「思い出は心の中にある」というのは、当然の事実ではあるのですが、実は「その『場所に行くからこそ』思い出される記憶や感情」というものも、たくさんあると思うのです。

1年半前に、この教室をお引っ越した際に、「あの場所が好きだから、引っ越したくない」と言っていた男の子がいました。先生もお友達も、レッスンも変わらず新しい教室にある。なんなら広くて綺麗な教室に移転する。でも、「前の教室という『場』」と、楽しい思い出が不可分になる気持ちは、僕にも良くわかるのです。

そして、なんなら、そうしてくれる子がいたことが、少し嬉しくもあったのです。その子にとって、場所への愛着が強くなるほどに、教室での記憶を大事な思い出にしてくれていた、ということなのですから。

祖父と僕の思い出の家は、遠くない未来に消えてしまうのだらうと思います。でも、無くなるものがあれば、生まれ育つものがあることがこの世の常というものです。

もうすぐ「祖父母との思い出の場所」は消えてしまう。でもその代わりに、この教室が子ども達にとってかけがえのない新しい「思い出の場所」になっていく。その場所を良き形で発展持続させていきたいな、と思う今日この頃です。そして、この気持ちを原動力に頑張っていくことは、祖父母から引き継いだ僕の「生」の活かし方であり、遠くない未来に消えてしまう「祖父母との思い出の場所」へのある種の供養でもあると思います。

今月の活動予定は[こちら](#)